

南区地域公共交通に関する意見交換会 会義概要

1. 開催日時

平成30年12月20日（木）午後2時～午後2時45分

2. 会場

南区役所 4階 講堂

3. 出席者（敬称略）

【委員等】

国土交通省北陸信越運輸局 新潟運輸支局
輸送・監査部門 運輸企画専門官 松永 展明〈副会長〉
新潟南警察 交通課長 樋口 哲郎
南区自治協議会 会長 小田 信雄
南区自治協議会 副会長 田村 義三郎
南区自治協議会 副会長 青木 智子
新潟交通観光バス株式会社 営業部 乗合バス課長 松田 英憲
南区役所 建設課長 吉田 時朗
南区役所 味方出張所長 島倉 仁志
南区役所 地域総務課長 高野 英介〈会長〉

【事務局】

南区役所 地域総務課 3名
新潟市都市交通政策課 2名

4. 議題

（1）開会

- ・（事務局）平成30年度、南区バス及びまちなか循環ルート“ぐるりん号”の運行概要及び運行実績について説明しました。

（2）意見交換事項

- 南区・区バス運行計画変更（案）について
 - ・（事務局）資料1に基づき、南区バス運行計画変更について説明しました。

《質問・意見》

- ・（委員）変更内容の利用者等への周知はどの様に行うのか。

⇒・（事務局）年度末に南区公共交通ガイドを作成し全戸配布を行う。加えて各コミュニティ協議会会長へ説明を行う。また、影響のある地区には、自治会を通して回覧文書で周知します。

- ・(委員)新潟白根総合病院を始発や終点に変更することは、病院など利用している方はバスを頼りにしている方が多いためとても好ましいと思います。

●路線バス（白根―曾根駅線）運行計画変更について

- ・(事務局)資料2に基づき、路線バス（白根桜町―曾根駅前線）運行計画について説明しました。

《質問・意見》

- ・(委員)この路線の年間利用者数は何人か。

⇒(事務局)3,780名です。ちなみに、調査期間中の一日の最大乗車人数は、5名でした。

(3) 報告事項

●南区乗合タクシー運行計画変更について

- ・(事務局)資料3に基づき、南区乗合タクシー運行計画変更について説明しました。

《質問・意見》

- ・なし

(4) その他

《質問・意見・情報提供》

- ・(委員)資料説明では、11月末現在でまちなか循環ルート“ぐるりん号”の収支率は24%と説明があったが、資料を見ると16%と記載されている。この違いは何か。

⇒(事務局)資料に記載の“ぐるりん号”収支率16%とは、運賃収入のみで計算した収支率であり、説明中の24%とは運賃収入に各企業様からの協賛広告を含め計算した収支率です。

- ・(委員)北部、大鷲ルートは、白根、大鷲小学校の児童が路線利用の大半をしめている。以前、この路線については、スクールバスの運行が議論されたことがある。地域総務課へ、地域や保護者の方から具体的な運行提案、問い合わせなどあるか。

⇒(事務局)地域総務課へは、そういった話は来ていません。

- ・(委員) 子ども達の運賃は、大人運賃から見ると安く設定されている。運賃そのものが安いのに北部や大鷲ルートは、児童・生徒の乗車に頼っている所以収支率を考えると、どう工夫しても収支率の向上には繋がらない。複合的な発想の中で物事を組み立て考えていかないと、将来的な存続も難しいと危惧している。
- ・(委員) 通院などで週2回や月に数回、区バスを利用している方が、1人でも利用しなくなると総利用者数は大きく変わってくる。特に高校生の利用者減により利用者数は極端に減っている。利用の頻度そのものが落ちたのではなく、児童生徒数が減った事が原因なので実績数の見せ方、考え方を社会や地域の現実と併せて議論しないといけない。
- ・(委員) 複合的な社会要素を勘案した交通体系をどこかで議論しないと、今まで十数年続いた区バスも、今までの観点だけで議論しても限界がある。

⇒(事務局) 今回の変更については、地元の声や収支率を考え、また高校生などがいかに利用しやすくなるのかという視点で見直しを行いました。本日の意見を参考に今後も検討を進めていきます。

5. 閉会